

令和7年度文京区障害者地域自立支援協議会

第1回子ども支援専門部会 次第

日時 令和7年6月16日(月)午前10時開始

会場 文京シビックセンター地下1階 アカデミー文京 アトリエ

1 開会

2 議題

- (1) 令和7年度障害者地域自立支援協議会子ども支援専門部会について

【資料第1－1号】【資料第1－2号】【資料第1－3号】【資料第1－4号】

- (2) 令和7年度子ども支援専門部会第2回（研修会①）について

【資料第2－1号】【資料第2－2号】【資料第2－3号】

- (3) 令和7年度子ども支援専門部会第3回（研修会②）について

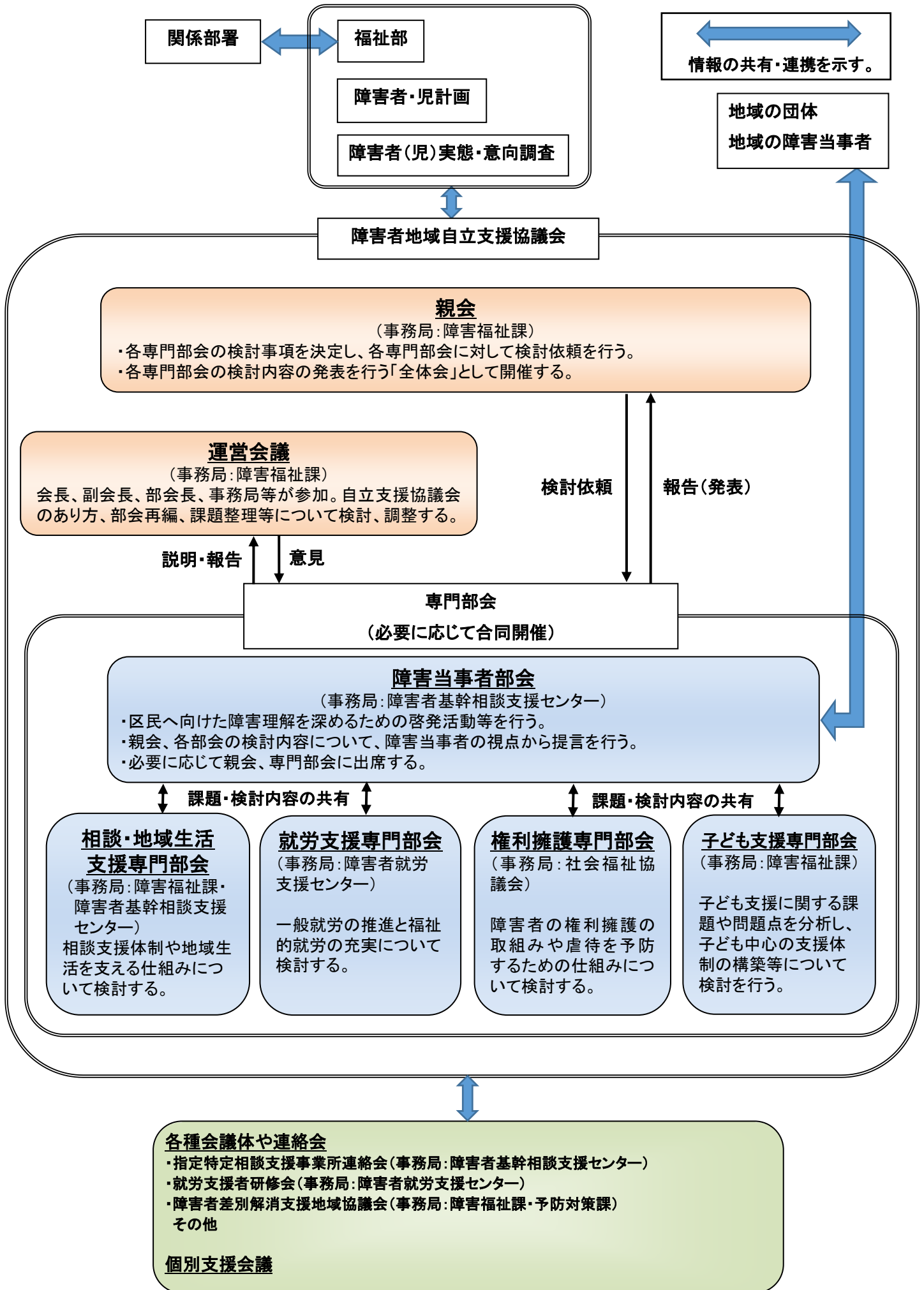
【資料第3号】

3 その他

【参考資料】

- ・令和7年度 文京区障害者地域自立支援協議会子ども支援専門部会員名簿

令和7年度 文京区障害者地域自立支援協議会 組織図（案）



令和7年度 障害者地域自立支援協議会スケジュール(案)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自立支援協議会 (親会)			第1回				当初は12月頃の開催を予定していたが、全体会とのスケジュールを見て、調整する。				第2回 (全体会)	
運営会議		第1回						第2回				
障害当事者部会		説明・報告 意見	検討依頼	第1回 説明 意見		第2回		説明・報告 意見		第3回 説明 意見	発表	
専門部会												
相談・地域生活支援専門部会				第1回			第2回		第3回			
就労支援専門部会				第1回			第2回		第3回			
権利擁護専門部会				第1回	研修会を2回実施		第2回		第3回	全体会に資料提出が間に合うよう、各専門部会は会議を開催		
子ども支援専門部会			第1回		第2回	第3回			第4回			

令和 7 年度文京区障害者地域自立支援協議会

各専門部会の検討事項について

令和 7 年度の各専門部会の検討事項は、下記の事項とし、検討事項については、文京区障害者地域自立支援協議会運営会議へ検討の進捗状況等を報告する。

また、年度末には、文京区障害者地域自立支援協議会（全体会）において各専門部会の検討内容の発表を行う。

各専門部会は、検討事項に属さない事項についても、必要に応じて検討するものとする。

記

1 相談・地域生活支援専門部会

相談支援に関する課題や問題点を分析し、相談支援体制のシステムや障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制の構築等について調査・研究・検討を行う。

支援を円滑に引き継いでいく方法及び暮らしをサポートする仕組みについて検討する。

2 就労支援専門部会

就労に関する支援内容等についての調査・研究・検討を行う。

就労選択支援事業の実施に向けて研究、検討する。

3 権利擁護専門部会

権利擁護に関する課題や支援のあり方についての調査・研究・検討を行う。

権利擁護の意識醸成および制度の利用促進、並びに関係機関との連携について検討する。

4 障害当事者部会

障害理解を深めるための啓発活動等についての検討を行う。

他専門部会や関係団体等と協働して開催し、障害当事者の視点から障害福祉に係る諸課題について検討する。

5 子ども支援専門部会

子ども支援に関する課題や問題点を分析し、「ライフステージに応じた切れ目」ない「子ども中心の支援体制」の構築等について検討を行う。

子ども支援に関する福祉、教育、保健及び家庭支援等の関係機関による相互理解・連携の促進を図り、子どもの特性理解に基づいた切れ目ない支援の課題について検討を行う。

令和 7 年度 子ども支援専門部会について

文京区障害児支援ネットワーク
文京区障害福祉課

子ども支援専門部会の成り立ち

- 障害児支援ネットワークの活動で、障がいのある子ども達とご家族をとりまく現状に多くの課題があることが改めて浮き彫りになった。



- 「幼児教育」「教育機関」「福祉」が共に集まり
「子ども中心の支援」に際して抱えている課題を出し合う場として、
文京区障害者地域自立支援協議会に子ども支援専門部会を設置。

年代ごとの支援者の連携（縦の連携）

高齢者

大学・就職後

中学校・高校

小学校

保育園・幼稚園

出生時

福祉

教育

家庭支援

保健

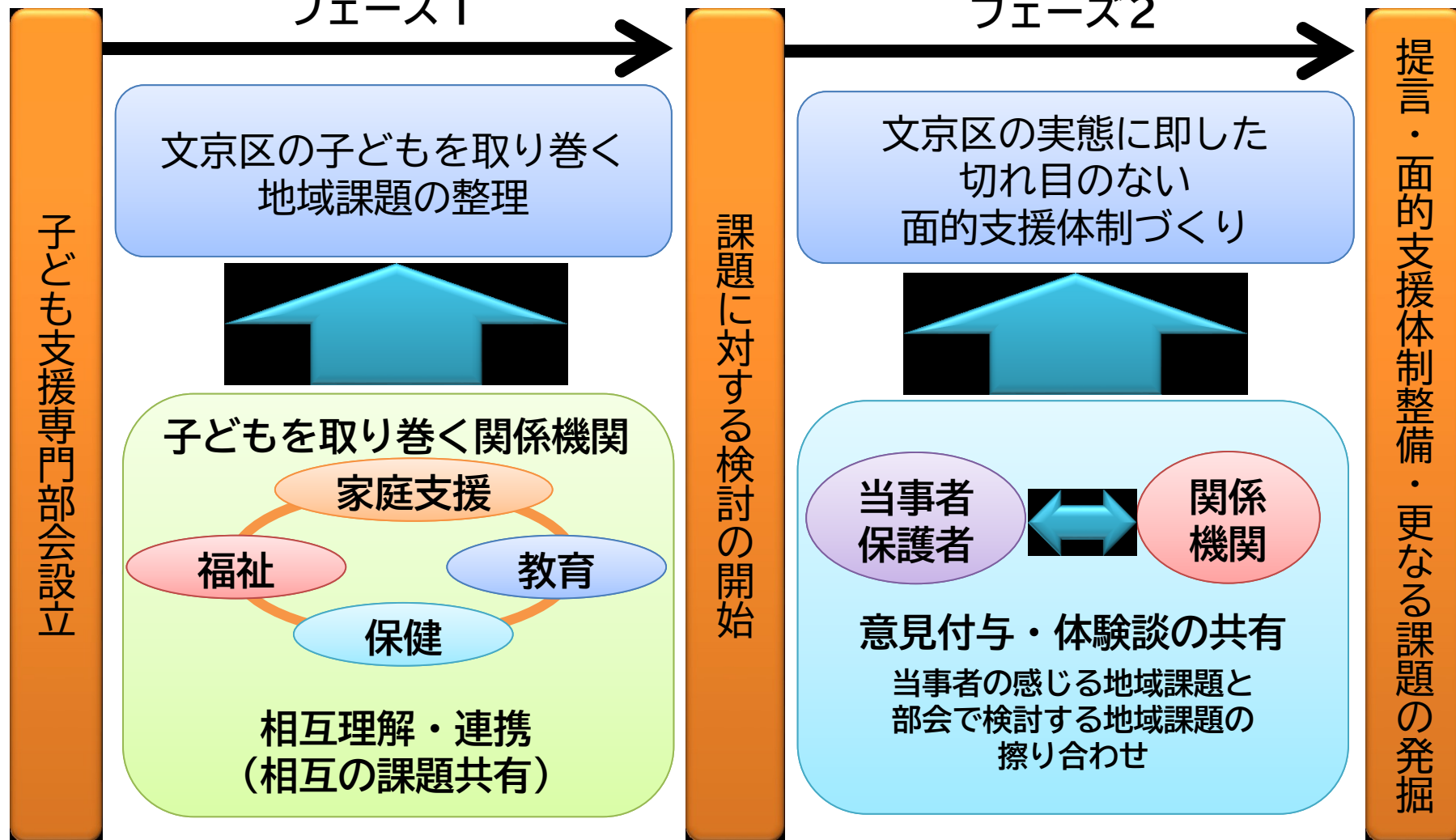
子ども支援専門部会
の対象範囲

分野ごとの支援者の連携（横の連携）

子ども支援専門部会実施方針

R5年度

数年後



※ 当事者・保護者は子育て時期を終えた方々のゲストスピーカーを想定。

※ 子どもはライフステージの幅が広く、ライフステージ毎の変化も大きい為、検討事項に応じて委員構成を変化させていくことが想定される。

令和 6 年度の実施内容

令和 5 年度の議論から、3 つの課題が抽出された。

- ① **支援者の縦横連携**→子どもを中心とした顔の見える関係の構築。
- ② **保護者支援**→支援の不足、保護者への働きかけ、敷居の低い相談の場。
- ③ **情報共有**→保護者の同意を得たうえで個人情報を含む情報の共有。

令和 6 年度は、① **顔の見える関係づくり**に向けて、研修会の実施を企画。

第 1 回 研修会の準備

第 2 回 研修会の実施

第 3 回 研修会の振り返り・課題抽出、次年度以降の検討

第 4 回 令和 6 年度総括、令和 7 年度実施方針について意見交換

研修会で見つけた「切れ目」

「縦の切れ目」

1. 幼児期から小学校への切れ目

保育園・幼稚園から小学校への移行で情報共有が不十分。障害特性の認識や療育の途切れが問題。

2. 小中高等学校間の切れ目

学年ごとの引き継ぎが不足。中学校・高校への進学時に情報が途切れる。

3. 18歳の支援の切れ目

18歳を迎えると支援サービスが変更され、連携が不十分になる。そのために、もっと早期から繋がる必要。

4. 成人後の社会適応における切れ目

グレーゾーンのケースで支援者と繋がり難く、社会適応が難しくなる。成人後の居場所の問題。65歳の切れ目。

「横の切れ目」

1. 教育・福祉（相談支援・児発・放デイ）・医療機関同士の切れ目

学校・医療・福祉機関間での連携不足、アセスメント方法の違いにより支援に一貫性がもてない。

2. 保護者支援における切れ目

保護者同士の繋がりが少ない。保護者の理解不足が支援の遅れに繋がる。保護者の意見や思いが優先される。

3. 情報の切れ目

制度の理解不足や相談のハードル、情報の引き継ぎや支援者間の繋がりが途切れやすい問題がある。

4. 保護者の気持ちと子どもの気持ちの切れ目

保護者の意見が優先される一方で、子どもの気持ちや意見が反映されにくく、支援の質が保護者の理解や経済状況に左右されがち。

研修会で見つけた「資源・強み」

1. 福祉・相談支援の資源

相談支援、総合相談、基幹、拠点など。

2. 学校・教育の資源

保幼小中連携、SC・SW、学校生活支援シート、校内委員会、ケース会議、部会・連絡会。

3. 地域資源・居場所の資源

子ども食堂、B-Labo、こまじいの家など。

4. 保健・医療の資源

乳幼児健診での支援、地域病院・小児科で知識の共有化。

5. 家庭や保護者に関する資源

教育熱心、経済力あり、子育てサロン活用。

6. その他の人的資源

各分野の専門家が充実。

なぜ、これだけ資源があるのに、
切れ目があるのか？



「切れ目」を「繋ぎ目」にする視点は？

研修会で出た「知恵・提案」

1. 顔の見える関係づくり

学校、放課後デイ、福祉・医療機関同士が顔を合わせ、信頼関係を築くことで、円滑な情報共有が可能。

2. キーパーソンづくり

各機関をつなぐキーパーソンが長期的視点での情報管理と引き継ぎを担い、子どもと家庭を一貫してサポート。

3. 個人情報考慮した情報共有の仕組みづくり

個人情報保護に配慮しつつ親の同意を得た上で必要な情報を統一的に管理することで、各機関で子どものニーズに即したサポートが可能。

4. 専門性の向上と人材育成

研修で専門知識を深め、各機関をつなぐ人材を育成し、持続的なサポート体制を確立。

5. 医療の活用

教育・福祉と医療機関の連携強化と情報共有の仕組みを構築。医療的ケアが必要な子どもへのサポートを充実。

6. 保護者支援

保護者同士や学校・放課後デイとの交流・相談機会を増やし、長期的な支援の方向性を共に考える場を提供。

研修会で分かった切れ目と課題



令和7年度子ども支援専門部会

- 回数 4回
- 内容（予定）
 - ・ 子ども支援専門部会について
（設置の経緯、部会の目的、今後の展望等の共有）
 - ・ 研修会の実施（①学齢期の事例 ②学齢期から青年期にかけての事例）
 - ・ 自立支援協議会の全体会報告について
- 委員
3年任期 16名
※議題に応じた関係者にゲストとして出席を依頼する。
- 事務局 障害福祉課障害福祉係

令和7年度 子ども支援専門部会スケジュール（予定）

第1回（6月16日）

- ・ 障害者地域自立支援協議会子ども支援専門部会について
- ・ 令和7年度子ども支援専門部会第2回及び第3回について

第2回（8月5日）

- ・ 学齢期の事例に基づく学習会（研修会）

第3回（9月）

- ・ 学齢期から青年期にかけての事例に基づく学習会（研修会）

第4回（12月）

- ・ 自立支援協議会全体会について
- ・ 次年度の実施方針について

R7年度自立支援協議会子ども支援専門部会学習会①（部会第2回） 企画書

研修実施者	文京区障害者自立支援協議会 子ども支援専門部会
目的	（１）教育と福祉が連携し切れ目のない支援を実現するために、<u>参加者同士が顔の見える関係を構築する。</u> （２）文京区の地域資源について理解を深める。 （３）実際の事例を通して文京区独自の地域課題を抽出し、解決への糸口に向けて知恵を出し合う。
参加者	教育：区内小・中学校・都立特別支援学校の教員、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級・特別支援教室等の担任、発達障がいのある生徒を担当する通常学級の教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等 医療：医師、看護師、リハビリ専門職（PT・OT・ST）等 福祉：障害児相談支援専門員、児童発達支援管理責任者、管理者、基幹相談支援センター等
研修開催日・時間	2025年8月5日 13：30～16：30（3時間）
研修会名	「教育と医療と福祉の顔の見える関係を深める～切れ目をつなぎ目に～」
内容	・地域資源の紹介 ・事例検討 ・小グループディスカッション ・学識経験者による総括
スケジュール	・挨拶（3分）高山先生 ・趣旨説明（7分）部会長 ※縦横の切れ目、縦横連携の図、支援級や通級のグラフなど、受給者証の実数なども ・地域資源の紹介①「文京区児童相談所について」（15分） ・地域資源の紹介②「放課後等デイサービスの現状と課題」（15分） ・事例検討の説明（10分） ・事例発表（20分） ・グループワーク（40分） ・自己紹介タイム ・参加者全員に最初の発言機会を保証し、心理的安全性のある話し合いを実現するために、順番に全員が一巡ずつコメントする「発言リレー形式」を進める（パスあり）。

	・事例をきいて、感じたこと ・事例の背景にある課題はなんですか？ ・地域資源として使えるものはありますか？ ・みなさんの現場で活用できることはありますか？など ・休憩（10 分）※名刺交換タイム ・シェアリング（20 分） ・事例提供者からコメント ・学識経験者からコメント、質疑応答（30 分） 「切れ目をつなぎ目にするためには、何が必要か？」 ・事務連絡、クロージング（10 分）
	懇親会

教育と医療と福祉の 顔が見える関係を深める ～切れ目をつなぎ目に～

◆ 日時

令和7年8月5日(火) 13:30～16:30

◆ 場所

文京区民センター 3A会議室
(文京区本郷4-15-14)



◆ 対象者

子どもと関わる教育・医療・福祉の専門職の皆さま

(例: 校長・教職員、スクールカウンセラー、医療従事者、相談支援専門員、児発管、福祉施設管理者など)

◆ 内容

① 地域資源の紹介

今年4月に始動した児童相談所や、放課後等デイサービスなど、文京区内の障害児支援に関わる施設をご紹介します。

② 事例検討・小グループディスカッション

具体的なケースをもとに、各参加者が様々な立場から地域課題を検討します。

③ 学識経験者による総括

課題解決に対する、学識経験者からの講評をいただきます。

《申込方法》

QRコードまたはお電話からお申込ください

提出先 文京区障害福祉課障害福祉係

TEL:03-5803-1211



R7 年度自立支援協議会子ども支援専門部会学習会②（部会第 3 回） 企画書（素案）

研修実施者	文京区障害者自立支援協議会 子ども支援専門部会
目的	（１）実際の事例を通して文京区独自の地域課題を抽出し、解決への糸口に向けて知恵を出し合う。 （２）専門部会間の連携を深め、各部会の視点の違いを理解し、それぞれの立場からの見え方への気づきを通じて、共通認識の形成を図る。 備考：顔の見える関係性といった大規模な研修会は第 2 回子ども部会で教育関係者も招いて実施しているので、今回はかつての相談支援部会で行っていた事例検討会のようなイメージで、小規模での地域課題の抽出を目指すという趣旨。
参加者	①子ども支援専門部会委員 ②ゲストとして他の専門部会や、検討する事例に適した機関から数名を招く。例：相談・地域生活支援専門部会や権利擁護専門部会の委員、引きこもり支援機関の方、就労支援センター、サービス等利用計画の相談専門支援員の方など。 備考：第 3 回子ども部会（当研修会）と相談・地域生活支援専門部会の第 2 回の時期が被るため、コラボとすることは困難な見通し。数名をゲストに呼ぶ程度を検討。
研修開催日・時間	2025 年 9 月 日 14 : 00～16 : 00
研修会名	未定
内容	・事例検討（学齢期から青年期にかけての事例） ・小グループディスカッション ・学識経験者による総括
スケジュール	

令和7年度 文京区障害者地域自立支援協議会子ども支援専門部会員名簿

No.	氏名	所属等	区分
1	高山 直樹	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科教授	学識経験者
2	萩野 美佐子	上智大学総合人間科学部心理学科名誉教授	学識経験者
3	内海 裕美	小石川医師会会長（吉村小児科院長）	医師
4	向井 崇	放課後等デイサービスカリタス翼 管理者兼児童発達支援管理責任者	事業所等職員
5	勝間田 万喜	富坂子どもの家 管理者兼児童発達支援管理責任者	事業所等職員
6	塚本 了介	ハッピーテラス千駄木第二教室 児童発達支援管理責任者	事業所等職員
7	高山 陽介	わでかくらぶ代表	事業所等職員
8	内田 千皓	相談支援事業所やえ相談支援専門員	事業所等職員
9	高田 俊太郎	障害者基幹相談支援センター 所長	事業所等職員（区委託）
10	柿沼 真理子	都立王子特別支援学校 特別支援教育コーディネーター	都教員
11	田邊 裕子	しおみ保育園長	区職員
12	川崎 洋子	子ども家庭支援センター児童相談係長	区職員
13	加藤 たか子	保健サービスセンター保健指導係長	区職員
14	高橋 拓也	教育指導課統括指導主事	都教員（区費負担指導主事）
15	井上 アヤ乃	教育指導課特別支援教育担当主査	区職員
16	小野寺 素子	教育センター総合相談係長	区職員

事務局	文京区障害福祉課障害福祉係
-----	---------------